学生団体 福ノ庭は、福島県須賀川市大桑原地域と富岡町夜ノ森地域の２つの地域で植物を活用し
地域活性化と被災地復興への活動をしている学生団体である。

団体理念

私たちは、“みんなの声で創るマチ“を実現し
豊かな社会づくりと環境に貢献します

1　常に貢献し続けます
2　住民、地域を起点に考えます
3　人の感動に関わるこの仕事を誇りに思います
4　未来を思い描き、創造し続けます
5　環境への思いやり
6　貢献と挑戦をします

活動目的

福島県須賀川市は、花の観光地が多くどれも歴史がある場所となっている
その中で渡邉の家業は600年前から続く大桑原つつじ園を営んでいる。そして
近年、帰宅困難区域が解除された富岡町は1万６千人の人口から震災後1200人へ
現象した。一方で、地域活性化や被災地の復興に興味を持つ学生がいるが実際に
取り組める環境がない。この点を結びつけ、実践場所を提供することを目的とする。
地域活性化をしたい人たちが実際に人と触れ合える場所を作りどんな形でも
多くの人に貢献できるような人材を作ることで復興が生まれる
そんな経験が学生にとって実践の場所となっている。

コンセプト

地域活性化・復興の本質を見抜く

自分たちが考えるこれらの定義を見つけ出す。
そして、ヒト・マチは何を求めているのかを把握する。
ただ良い建物を建てることが復興か、何を大切にしない
といけないのか、その全てを感じ自分なりに見つけ出す。

きっかけ

2011年 代表である渡邉が東日本大震災を小学4年で経験する
→被害から約10年が経ち、徐々に復興へ兆しを見せたが、復興とは何かを見つけ
出したい。復興の本質とは何かを探し、被災した地元福島県の復興に役立ち後押し
したいと考え発足

心の癒しを与える植物を使用し地域に貢献したいと想い2018年より活動を始める

★「植物×復興×地域活性化」で復興の定義が何かを見出せると考え活動

富岡町夜ノ森駅ツツジ
再生・再植樹プロジェクト

福島県富岡町「夜ノ森駅」はツツジが有名
震災により帰宅困難区域へ（現在、町の2/3が解除）
放射能汚染によりツツジで有名な富岡町「夜ノ森駅」のツツジが
根元だけ残し伐採。

富岡町の誇り・ふるさとの魅力の再生・再構築
住民から、もう一度あの光景を取り戻したいと声が上がり
「大桑原つつじ園×NPO法人×富岡町役場×学生団体福ノ庭」
ツツジの再生と地域住民のコミュニティーの創出
※福島県ふるさと・きずな維持・再生支援事業

株式会社 ローランドベルガー
共同プロジェクト

株式会社ローランドベルガーが「みんなでうごこう！」
プロジェクトを発足。その中の一つの企画に加わり共に
観光×植物×モビリティ（車）で観光農園での実証実験中。
※コロナにより活動がストップ

動きたくなる＋動きやすくなる」
日本の「移動総量」を増やし、移動社会・経済を元気にする
「フリーモビリティ」「ローカルエコノミー」「QOL」の 実現

福島県郡山市宇津峰山
ツツジ・山野草群生地再生プロジェクト

宇津峰山はツツジ・山野草の群生地となっていた

近年群生地の絶滅の状況へとなる
「地域住民×植物×岩瀬農業高校×みどりを守る会
　　×大桑原つつじ園×学生団体福ノ庭」
が群生地の再生プロジェクトを発足

山野草　バイオテクノロジーにより数本→２万本
　　（サギソウ　ヤマユリ　エビネラン　）
ツツジ　挿木方法により数本→200本
　　（レンゲツツジ　ヤマツツジ　ニホンシャクナゲ）

Safecast共同プロジェクト

放射能のキッドを高校生と共に作り、普段歩くところの計測をする
ワークショップを各学校で行っている。

放射能への理解と共に、風評被害や復興や放射能についての
ワークショップも行い一人ひとりが理解し行動できることを目的と
している（正しくおそれ、正しく行動する）

現在では、世界中でボランティアが線量機を身に付け世界中の放射線量
のデータ寄付をしている

高校生自然学習

小学校・高校への出張自然学習

現在の自然環境や花についての講義
農業高校では、本格的に花の技術を教えている

小学校では、花壇づくりのアドバイスや実際に花が生産から植えられるまでの工程を教えている

現在まで、150人が授業を受けてる

クラウドファンディング

活動の拠点としている大桑原つつじ園がコロナにより経営難に陥る

600年26代続く庭園を存続させるためにクラウドファンディングを仲間で作成する。

結果
目標金額　300万→310万
支援者数　249人

今後の展望

自分たちが復興や地域活性化の本質を捉え、その強みを生かし様々な地域の植物を使い地域活性化をしていく
そして、地域活性化や復興事業でのマネタイズを作り出す

宇津峰山や富岡町の事業では短期間の計画ではなく10年計画で動いているため協賛やスポンサーをつけより発展させていく

また今年度は、長野県木曽地域で純日本産の漆を栽培し木曽漆器を再興させるプロジェクトの予定

次年度では、本質を捉え自分たちが個々で活動できるような体制の構築とノウハウの伝授や継承を生み出す。